



---

# 未来に向けた参加体験型の万博を 日本から世界へ

平成29年2月15日  
大阪府知事 松井一郎

この資料は、有識者や大阪の若者のみなさんなどからご意見をお聴きし、「大阪でこのような万博に挑戦したい」という私の思いと願いをまとめたものです。

## 未来に向けた参加体験型の万博を世界へ

# 最先端テクノロジーとソフトパワーで 「体験」と「出会い」を最大化する万博に

<1> みんなでつくりあげる万博

<2> 世界へと波及する万博に

<3> 人類の2050年を考える万博

<4> 多様な人々が出会い、  
地球人を生み出す万博

<5> 「待ち時間ゼロ」の万博をめざす



# < 1 > みんなでつくりあげる万博

## 「みる側」から「つくる側」へ

### ◆世界中の若者が「万博でやってみたいこと」を実現

- 「体験」と「出会い」を最大化する万博とするために、すべてのプロセスを参加・体験型にして、若者のアイデアを積極的に取り入れ、みんなでつくりあげる万博に。

### ◆全員がクリエイターになれるチャンスのある万博に。

- テクノロジーの発展により、プロとアマチュアの差がなくなってきた。
- みる側をつくる側へと引き入れるしかけを導入する。
- 自分で健康コンテンツをつくり、万博会場で提供されるような万博となれば、他の人を呼びたくなる。



若者などの挑戦を誘発し、  
これまでになかったものを生み出す万博に



## 大阪・関西のみなさんが「つくる側」となる万博に

### ◆ 関西全域で多彩な参加体験の機会を提供

- 「食」、「生活」、「文化」、「まちづくり」、「ライフサイエンス」の体験など、健康をコンセプトに地域の多彩な魅力が体験できるプログラムをつくる。
- 世界規模で活躍する民間活動との連携を進め、世界の人々を呼びこむ。

### ◆ 各地域から様々なおもしろい取組みが生まれる万博に

- 万博に関するライセンスをフリーにすることなどにより、関西から独自の商品が生まれる。
- 地域ごとに、特色あるミニ万博などを多数展開。
- これらにより地域経済が活性化。

関西一丸となった取組みを展開し、世界へ魅力を発信

## <2> 世界へと波及する万博に

### 世界の各地にいながら万博への参加・体験を可能に

#### ◆最先端のテクノロジーを活用し、新しい参加形態を提案

- 様々な事情で会場に来られない人々も、万博会場と同様の参加体験を可能にするしくみを構築。

#### ◆世界各地で万博の取組みをリアルタイムで実践

- 世界の課題解決（乳幼児死亡率の改善など）に役立つ最先端技術を、会場から発信。それらを活用したボランティアやNGO、企業家などによる取組みを後押し。
- 世界での「ミニ万博」開催をノウハウ提供などにより支援。



世界各地へと万博の取組みを広げ、  
世界中の人々がよりよく生きることができる社会の実現へ貢献

## <3> 人類の2050年を考える万博

### 2050年の新たなビジョンを共有する万博に

#### ◆2050年の社会の姿を見据えた、新しい生き方や社会のあり方のモデルを創出

- 人工知能 [A I] が人間の能力を超えるといわれる2050年を見据え、人間らしさをあらためて問い直すことで未来へのビジョンを描き、世界へ発信する。
- 未来のライフスタイルを視覚化。
- 未来社会を体験し、それに向けた行動につなげる万博に。



万博会場から、2050年に向けて、  
人類がいきいきと生きられる未来のビジョンを発信

## < 4 > 多様な人々が出会い、地球人を生み出す万博

### 万博を新たなコミュニティが生まれる場に

◆会場内で人々が自然に出会い、友だちとなり、交流が生まれるしくみづくり。

- 国籍、年齢、性別を問わず、人々が自然につながるしかけを、会場で展開。
- 万博で生まれたつながりが、レガシーとして、国籍、年齢、性別を越えてつながり、新たなコミュニティをつくりだす力となるしくみづくり

バーチャルからリアルへ  
リアルで会った経験が生きる万博に



## <5> 「待ち時間ゼロ」の万博をめざす

**IoT、AI、ロボットテクノロジーなどの最先端技術を活用して、人の動きを完璧にコントロール。**

**①リアルタイムで人の動きを把握し、ダイナミックに対応**

**②楽しみを提供しながら、同時に人の行動をデザインする**

**③パーソナルアシスタントシステムで来場者を誘導**



**かつてない快適な会場環境を提供する万博に**



## ◆これまでに有識者や大阪の若者のみなさんなどからいただいた 会場での展開アイデア（例）

### （会場運営）

- ICT技術により来場者の動きをリアルタイムで把握。
- 来場者の動きに応じて、エリアを拡大・縮小するなど、ダイナミックに対応する会場運営を構築し、会場内での行列や待ち時間をなくす。
- 関西国際空港からの来場者に対応する24時間開場や早朝・深夜への開場時間延長
- 時間指定など来場者ニーズに応じた新しい料金システムの導入検討
- ロボットでエネルギー管理を実施し、快適な会場環境を提供 など

### （モビリティ）

- 完全自動運転（レベル4）で走行する自動車の実験場にする。自動運転車の試乗により待ち時間を調整。
- 来場者需要を予測して交通アクセスを完全にコントロールすることで、人の流れを円滑化
- 会場内では、年齢・障がいの有無・言語など、参加者特性に対応したパーソナルモビリティシステムなどを導入。
- パーソナルモビリティに予約やチェックアウト（精算）システムなどを付加 など

### (人の行動をデザイン)

- ゲーム感覚で利用者を動機づけ、課題解決につながる「ゲーミフィケーション」の考え方を活用し、楽しみながら「人の動き」をつくりだす。
- エンターテインメントやスポーツの要素を導入し、アトラクション化。万博会場で「気が付いたら健康になっている」体験を提供。
- 万博終了後に健康になるための新しい習慣が参加者の生活に根付くような体験を提供

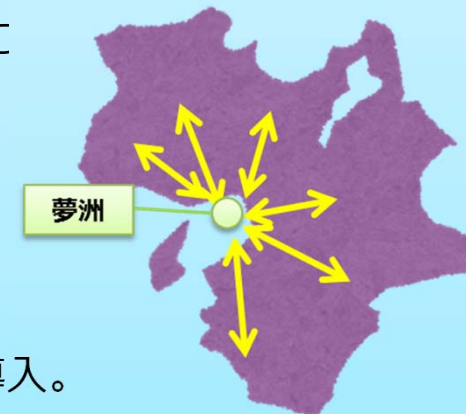


など

### (パーソナルアシスタントシステム)

- スマートフォンの万博アプリや人工知能搭載ロボットを来場者ひとりひとりに提供。個々の来場者のニーズと会場の混雑状況に応じた最適の動きを提供。
- システムを通じて、様々なパビリオンの知られていない魅力などをきめ細かに提供し、人の動きを分散。
- エリア外の魅力を体験できる多彩な個別プログラムも提供し、会場からエリア外への流れをつくる

など



### (その他)

- 高齢者などが快適に参加体験を楽しめるよう、ロボット技術を積極的に導入。
- ストーリー性とゲーム性をもった会場展開で、人々のワクワク感を増大させる。

など

最後に・・・

## 私がテーマに込めた思い

### ○世界中で健康に関する課題は山積

- ・先進国では、健康寿命の延伸が課題
- ・発展途上国では、まずは、寿命の延伸が課題

### ○「豊かな人生」を送るために「健康」こそが、人類共通の願い

- ・命の続く限り、「自立して生活できる」ことが豊かさにつながる
- ・長い人生をよりよく生きることは高齢者だけではなく、若者にとっても大きな課題

**「健康」は、“人類がどう生きるか”を構成する重要な要素  
私たち人類を取り巻く幅広い分野に影響を及ぼすもの  
大阪・関西の強み**